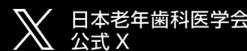




<https://www.gerodontology.jp/>



本紙に掲載されている本会オンライン事業の画像は、本会理事長が撮影を許可した広報委員会によるものです。本会オンライン事業に関するコンテンツの複製、その利用等は、目的の如何および個人利用を問わず、本会理事長が許可した場合を除き一切禁止しております。



News Letter

No.59

一般社団法人日本老年歯科医学会 会報

2025年3月31日発行

【本号のトピックス】

第36回学術大会がいよいよ6月開催! / 日本歯科医学会会長賞受賞報告
摂食機能療法専門歯科医師に関するお知らせ / 研修会・セミナー開催報告
専門医認定者の声 / 専門医活動レポート / JSG EXAM7についてのお知らせ

第36回学術大会のご案内 #JSG25

口腔機能の維持・向上で老年学に貢献する—輝く100年を口とともに生きる—

大会長 片倉 朗
(東京歯科大学口腔病態外科学講座教授)

今回の学術大会は、千葉・幕張での開催です。2年に1回の日本老年学会の合同大会の年でもあるため、老年学の最新情報に接することができる充実した3日間になることと思います。情報交換会(懇親会)は、幕張ベイエリアを代表する学会場近くの会場で開催されます。老年歯科医療について語り合いながら親交をあたためましょう!

ぜひお誘い合わせのうえ会場にお越しください。

会 期: 2025年6月27日(金)~29日(日)

会 場: 幕張メッセ国際会議場・国際展示場他
+オンデマンド配信

事前参加登録: 2025年5月31日(土)正午まで

直前・当日登録: 2025年6月2日(月)正午(予定)
~7月31日(木)17時

当日の現地会場での登録は行いません。WEBからのオンライン登録、決済をお済ませのうえ、ご来場ください。

日本老年歯科医学会
Japanese Society of Gerodontology

いつだって、
いくつだって、
人は光輝く。

輝く100年を口とともに生きる

口腔機能の維持・向上で老年学に貢献する

一般社団法人 日本老年歯科医学会第36回学術大会

幕張メッセ・東京ベイ幕張ホール(千葉市美浜区)

2025年6月27日(金)・28日(土)・29日(日)

対面・オンデマンド ハイブリッド開催

大会長 片倉 朗
東京歯科大学 口腔病態外科学講座

準備委員長 上田 貴之
東京歯科大学 老年歯科診療学講座



大会 HP

第34回日本老年学会総会のご案内

本会を含めた7つの学会が一堂に会する日本老年学会総会が、会期を同じくして幕張メッセ・TKP 東京ベイ幕張ホールにて開催されます。本会学術大会への参加登録で、日本老年学会総会および共催学会の参加も可能です。



総会 HP



令和6年度日本歯科医学会会長賞を 本会名誉会員が受賞されました！

本会名誉会員の市川哲雄先生、佐藤裕二先生が、歯科医学・医術の研究に成果を収め、歯科医学・医療の向上に特に顕著な貢献があったと認められる者を顕彰する「令和6年度日本歯科医学会会長賞」を受賞しました（市川先生は研究部門、佐藤先生は教育部門）。令和7年2月18日、日本歯科医学会よりプラーク（表彰楯）とメダルを贈られました。おめでとうございます。



授賞式後の集合写真（日本歯科医学会ご提供）
（前列左から3人目が市川先生，5人目が佐藤先生）

摂食機能療法専門歯科医師と他学会認定制度の 連携および制度改正について

摂食嚥下リハビリテーション委員会委員長 戸原 玄

今後の高齢者歯科診療に携わる歯科医師には摂食機能療法に対する知識が必要であることから、本学会では2011年より摂食嚥下機能評価ハンズオンセミナーを計4回開催し、それを発展させる形で摂食機能療法専門歯科医師制度を創設しました。

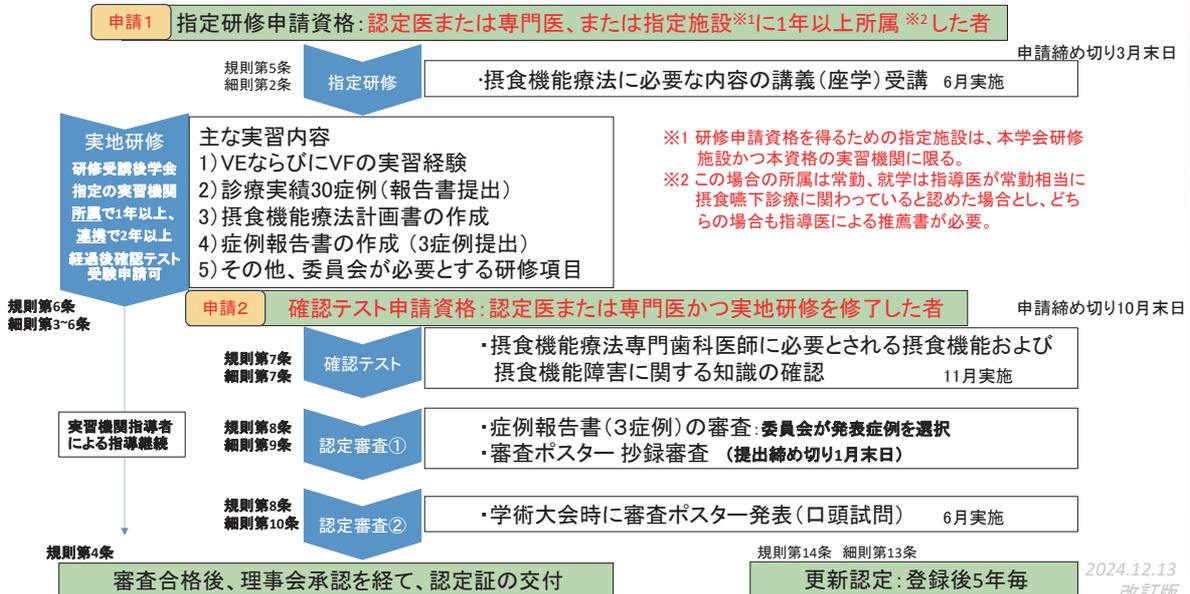
このたび、日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士の有効他資格として、本専門歯科医師が認められました。端的に申しますと、本専門歯科医師を取得している方は、日本摂食嚥下リハビリテーション学会に入会する

と認定士が得られることとなります。

その他、資格制度の改正を行いました。認定医または専門医をもっている方しか研修を開始することができなかったのですが、図の申請1の赤字で示すように指定施設に1年以上所属した方は本研修を開始することができます。それにより、最短6年で本専門歯科医師を取得することが可能となります。奮って本制度をご利用いただければと思います。

改訂版
改訂箇所赤字

摂食機能療法専門歯科医師 認定までの流れ 実施時期は予定です。



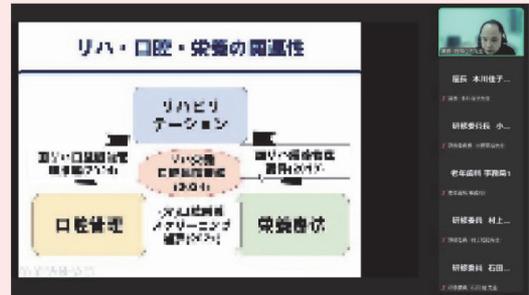
第14回高齢者医療 臨床研修会開催報告

研修委員会委員 本川佳子

2025年1月31日（金）に第14回高齢者医療臨床研修会を開催しました。長崎リハビリテーション病院の管理栄養士である西岡心大先生を講師に迎え、「GLIM 基準を含めた高齢期の栄養管理—高齢者の健康と生活の質を維持する」と題してご講演いただき、計209名の参加者が集まりました。

西岡先生からは、令和6年度の診療報酬改定で示された低栄養評価法であるGLIM基準に焦点を当てた評価方法や栄養スクリーニングについて詳しく解説していただきました。また、高齢者特有の栄養状態悪化に関する事例をもとに、具体的な栄養管理についても説明がありました。栄養管理における多職種連携の

重要性を再認識することができ、非常に有意義なセミナーとなりました。



図を用いてわかりやすくご講演いただきました

第15回高齢者医療 臨床研修会開催報告

研修委員会委員 石田 健

2025年2月21日（金）研修委員会主催で、第15回高齢者医療臨床研修会をオンラインにて開催いたしました。

今回のセミナーでは、講師に医療法人社団恵真会 Ihana 歯科岐阜の三輪俊太先生をお招きし、「歯科訪問診療でのトラブルシューティング」と題してご講演をいただきました。

当日は293名の参加があり、盛況のうちに終了いたしました。セミナーでは実例をもとに、訪問診療特有の問題とその解決方法について、臨床手技や疾患対応に加え、社会的アプローチについても解説していただきました。

訪問診療でよく遭遇する問題を構造的に捉え、実際の訪問診療の臨床の場での問題の解決法について新たな視点を得る貴重な機会となりました。



講演中の三輪先生

第16回高齢者医療 臨床研修会開催報告

研修委員会副委員長 潮田高志

2025年3月7日（金）、研修委員会主催の on-line Live 第16回高齢者医療臨床研修会を開催いたしました。今回の研修会は、日本大学歯学部摂食機能療法学講座主任教授の米永一理先生をお招きし、「口腔緩和医療と終末期歯科医療」の演題でご講演いただきました。

がん終末期における局所的疼痛コントロールから摂食嚥下にかかわる管理、患者心理や患者家族のメンタルケア、社会的背景を考慮したケアに至るまで、幅広い内容をわかりやすく、熱の入ったご講演をいただきました。278名と多くの参加があり、超高齢社会のなかで終末期医療へ歯科医師が積極的に介入する必要性と、関連する多くの必要な知識を得ることができた貴重な時間となりました。



講師の米永先生

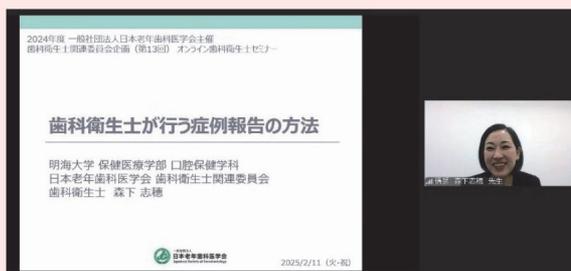


オンライン歯科衛生士セミナー開催報告

歯科衛生士関連委員会委員長 菅野亜紀

2025年2月11日(火・祝)、第13回歯科衛生士関連委員会主催セミナーをオンラインにて開催しました。今回のセミナーは、森下志穂先生(明海大学保健医療学部口腔保健学科)より「歯科衛生士が行う症例報告の方法」と題してご講演をいただきました。当日は、計124名の参加があり盛況のうちに終了いたしました。症例報告の意義とともに、作成のための基本的な進め方とポイントについて、歯科衛生過程の概念に基づきご説明いただきました。また、多職種に理解してもらえる症例報告となるよう、日頃より客観的データを意識的に記録し、経時的で読み手にわかりやすい記載が重要であることをお示しいただきました。

今後、歯科衛生士の専門性を高めるために必要な症例報告の作成に関して、理解を深める有意義なセミナーとなりました。



有意義なセミナーをありがとうございました

オンラインLive研修会開催報告

2025年2月27日(木)に、今年度の介護報酬改定で新設された「口腔連携強化加算」に関するLive研修会をオンラインで開催しました。本加算は、訪問系・短期入所系の介護サービスにおいて関連職種が利用者の口腔内を評価し、その情報をケアマネジャーと歯科医療機関に提供することで介護報酬が請求できる制度です。講師の渡邊賢礼委員、鈴木瞳委員、玉田泰嗣委員、吉見委員より、加算の概要や背景、口腔の評価方法、加算に必要な準備、介護事業所と歯科医療機関との連携のポイントについてお話いただきました。当日は191名(歯科医師、歯科衛生士、看護職、

特任委員会(老健事業・連携強化)委員 吉見佳那子

リハ職、医師、管理栄養士、事務職等)の参加があり、盛況のうちに終了いたしました。



中川量晴委員長とパネリストによる質疑応答の様子

新規 専門医認定者の声

原田佳枝先生

(長崎大学大学院医歯薬学総合研究科
歯科補綴学分野)

鹿児島大学口腔顎顔面補綴学分野の在籍時から高齢者の義歯補綴と口腔機能維持管理に取り組むなかで、認定医取得後は、公私の両面で限られた時間を調整しながら、さまざまなご支援をいただき専門医取得を目指しました。症例報告書では、多職種連携を意



識した口腔機能維持の重要性をアピールしました。筆記試験は補綴以外にも幅広い知識が求められ難しく感じましたが、合格できて安堵しております。

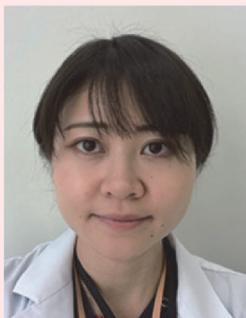
今後はさらなる研鑽を重ね、老年歯科専門医として高齢者歯科医療により一層貢献してまいります。



小谷朋子先生

(川口きゅうぼらリハビリテーション病院)

私は2023年に新規開設した回復期病院にて勤務しています。本学会においては、私が入会した頃と比べても、摂食嚥下リハビリテーションや病院歯科に関連する演題が増えたように感じ、日々臨床のなかでもその重要性を実感します。



私が専門医を目指したのは、多職種と働かなかで、自分の専門性を示すことができるものと考えたからです。これまでの症例を振り返る良い機会にもなりました。今後は地域の病院歯科として、活躍できるように精進していきます。

本釜聖子先生

(愛媛大学医学部附属病院
歯科口腔外科・矯正歯科)

私は、徳島大学を卒業、口腔顎顔面補綴学分野の大学院へ進学し、修了後しばらく同分野にて勤務した後、4年前から現所属となりました。症例報告作成の際は、高齢者が有する医学的問題だけでなく、社会的背景、QOLなどにも配慮したことを重点的に記載しました。



筆記試験に向け、『老年歯科医学 第2版』（医歯薬出版）を中心に勉強しました。出題範囲は多岐にわたっており、大変ではありましたが、今までの知識の再確認と新しい知識を習得する良い機会となりました。

今後、老年歯科専門医として、臨床、研究に従事し、さらに研鑽を積んでいく所存です。

松田 岳先生

(徳島大学大学院医歯薬学研究所
口腔顎顔面補綴学分野)

私は、大学病院に所属し補綴歯科治療を中心とした高齢者歯科治療に従事しています。

筆記試験は、医局の専門医の助言を賜りつつ、『よくわかる高齢者歯科学 第2版』（永末書店）を中心に勉強を進め、試験に臨みました。実際の試験は、高齢者に関する歯科治療や医学的知識を求められ難易度が高く、手ごたえはよくありませんでした。専門医を取得できましたが今後も今までと変わらず精進し、地域医療に貢献しながら老年歯科医学の発展に貢献していきたいと考えております。

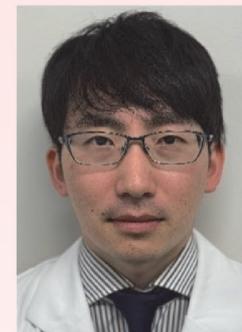


石田晃裕先生

(東京歯科大学 老年歯科補綴学講座)

このたびは専門医として認定をいただけたことを、心から嬉しく思います。私は元々、補綴歯科に強く興味を持っておりました。しかし所属した老年歯科補綴学講座で、補綴歯科やそれを取り巻く社会の動きを学ぶにつれ、老年歯科医学こそ将来の社会から強く求められるフィールドであると感じています。

専門医認定は、症例をご指導くださった指導医の先生はもちろん、治療および管理に協力いただいた衛生士、看護師その他多職種の方々の多大なお力添えがあって得られたものです。それに恥じないよう今後も研鑽を継続し、人々に求められる医療を提供する所存です。



専門医活動レポート

金子昌平先生
(広島県・スマイル歯科クリニック)

<地域での専門医の立ち位置>

私は広島県三次市で開業して41年になります。開業して間もなく、高齢の全盲のご主人の両手を奥さんが介助して、また同日、障害者の弟さんをお兄さんが車椅子に乗せて来院されました。全盲の患者さんは「上下総義歯を新しく作ってほしい」との主訴でした。障害者の患者さんは「上の歯を抜いてほしい」との主訴でしたが、診療室へ入ることを拒否されやむなく縁側で抜歯を行いました。外来診療では今後ご家族の負担が増えることを考え、この2件の出来事が「往診」するきっかけとなりました。

現在、協力医として三次地区医師会老人保健施設あさぎりと老人ホームへ訪問診療しています。別の日は、重度障害者施設と他施設、在宅（キーパーソン家族・ケアマネジャーも同行してもらいます）です。診療前、予定患者の当日朝の検温結果表に目を通し診療を開始します。2020年から新型コロナウイルス感染症のパンデミックが生じ、医療介護の現場をはじめ日常生活において多岐にわたり感染対策の大切さが周知されるなかで、飛沫口腔ケアについて現場をはじめとし議論

されるようになったのは先生方のご存じのとおりです。訪問診療では外来診療と同じような診療ができるよう、ポータブルユニット、機器、器材を持参し診療しています。

また、三次・庄原地区多職種連携会議（構成団体17）への参画、そしてスマイル歯科クリニック内に三次市歯科医師会在宅支援室を設立し9年間担当、現在、市の歯科衛生連絡協議会内へ移行しています。このような活動そして出務は、高齢者医療に対する意識の向上に根づいていくと信じています。また、次世代を育てる責務とも考えています。凡事徹底、現場を見ることです。今後ともどうかご指導のほどよろしくお祈りします。



左被殻出血後遺症の患者への口腔ケアの様子

JSG EXAM7についての重要なお知らせ

JSG EXAM7 は、2018年の時点で本学会主導の臨床研究のために開発されたものであり、当時の口腔機能低下症の検査を対象としているため、新規検査や現状の口腔機能管理にすべての点で対応はできておらず、アプリの将来的なアップデートの予定も立っておりません。現在の本アプリの使用状況および医療保険制度の変化に追従できていない点から、近い将来の廃止へ向けて学会内で議論の開始が2024年12月20日の本会理事会で決まりました。

ご利用中の会員の皆様、また、これからの利用を検討されている会員の皆様には多大なるご迷惑をおかけ

いたしますが、なにとぞご理解を賜りたく、お願い申し上げます。

詳細が決まりましたら、本会ホームページにてお知らせいたします。



編集後記

6月27日から開催される一般社団法人日本老年歯科医学会第36回学術大会まで約2か月となり、広報委員会では各種の企画を立案しております。例年どおりSNSにてカウントダウン等のイベントも予定しており、会員の皆様も学会公式アカウントをフォロー、リポスト、シェアいただけますと幸いに存じます。そして多くの会員と学術大会でお会いできること、広報委員会一同は楽しみにしております。
(飯田 崇)

発行人 平野浩彦

編集 (一社)日本老年歯科医学会広報委員会

事務局 〒170-0003 東京都豊島区駒込1-43-9

駒込TSビル (一財)口腔保健協会内

電話 03-3947-8891 FAX 03-3947-8341

E-mail jsg@kokuhoken.or.jp